

辻 貴裕 (Takahiro Tsuji)

抄録

今のインプラント技工手技を語るうえで歯科用 CAD/CAM システムの存在は欠かせない。しかし、どれだけの人が数ある CAD/CAM システムの中から自信のスタンスに最も合った機種を選別し、そのスペックを最大限に活用しているのだろうか？

同じ CAD/CAM であればだれでも同じ品質の技工物が作れるといった間違っただ概念はもう捨てるべきだろう。

我々が培ってきたアナログ的手法を越えるだけのデザインや精度、さらにスピードを追及するためにはハードとソフト両面の特性を理解し、それらをカスタマイズする必要がある。今回は”No more wax up”を目指したモノリシックジルコニアを用いたインプラント技工術式を解説し、口腔内スキャナーを含めたデジタルツールを極限まで活用したときに見えてくる残るべきアナログ手技とは何か。また、ラボサイドが目指すべきインプラント補綴におけるデジタルデンティストリーとは何かを考察したい。